

城内には伊塔道臺、寧遠縣、都司の諸衙門、通商局、電報局等、又城外には、露國總領事館、同電信局、露清銀行支店等ありて、人家總計約五千、其大部を露人とす。内商店六百餘、大なるは塔思干、浩干、安集延、喀什噶爾等の商人にて、露國製の更紗、羅紗、鐵具等を輸入し、家畜、羊毛、獸皮等と貿易せり、又城盤子及當城間は樹木多く、人家其の裡に點在して、露人の別莊及數所の製毛、製皮、製粉場あるを見る。

此の地は舊と清商と游牧民との交易場に過ぎざりしが、輒近露國と通商を開くに及び、商況次第に旺盛となり其の市場に於ける衆種族の會合を見ること、又喀什噶爾の比に非らず、凡そ漢人、滿人、漢回、纏頭回を始めとし、其の他錫伯、索倫、額魯特、蒙古、哈薩克、敖蓋意（露國教徒なり）、吉爾吉思、安集延、塔思干、浩干、猶太、歐洲露西亞人等各人種各別の容貌、各異の衣、帽、同聲異音の談話を以て、彼我賣買、步騎混合して、東西に往來するの景況は實に天下の一奇觀たり。

伊犁河は惠遠城の西門外烏河の右岸に沿ひ南下約二里にして、直に之れに達すべし、此間沙地大部を占む。同河右岸は斷崖絶壁、遠く左岸を制し、且つ北方に彎入せるが故に守るに利あり。河幅は六七百米突以上、千米突に及び、水深く、流れ急、其

市場の奇觀

伊犁河の遊聞